



国際交流プログラム

本学では、海外大学との交流協定に基づき、様々な学生交流プログラムを実施しています。海外の学生との交流や歴史・文化体験は、語学力や国際感覚を磨くだけでなく、視野の広がりや自己成長のきっかけとなっています。



ミドルベリー大学との交流事業を行いました

本学では、2013年からミドルベリー大学日本校(本校:米国バーモント州)との交流事業を実施しています。本事業では、ミドルベリー大学日本校の留学生が鳥取県に來訪し、本学の学生とともに智頭町を主なフィールドとして林業が抱える問題点と地域の取り組みについて、体験を通じて学びながら、両校学生および地域の方との交流を深めています。6回目の実施となる今年度は、2019年10月26日～28日の3日間、ミドルベリー大学の訪問団10名と本学学生7名が参加しました。



初日は、智頭町芦津地区の山林で間伐体験を行いました。地元の講師の方々のご協力のもと、グループごとにチェーンソーの操作方法や伐採方法を学んだ後、実際に伐倒、採材、集材、積み下ろしの作業を行いました。汗を流した後は、地域の方を交え、両学の学生が協力して作ったカレーや地元の料理を囲んで親睦を深めました。

2日目は、地元講師の方から林業の現状や課題、地域の取り組みなどについてお話を聞き、前日に行った間伐体験の理解を深めました。その後、間伐材を温水プールの熱源として利用している薪ボイラー施設を訪れ、町内で間伐された木材が町内で経済循環される「地産地消」の仕組みを見学したほか、石谷家住宅や智頭宿の散策を通して地域の歴史を学びました。



最終日は、本学英語村にて智頭町で学んだことについて振り返り、グループごとにまとめを発表したほか、SDGsについて英語で議論しました。参加した学生からは、「地方創生と持続可能なまちづくりについて考えるきっかけとなった。」「国際交流と林業体験が同時に体験できる貴重な機会だった。」といった感想が聞かれました。



台湾からの交流団が本学を訪問しました

2019年10月21日、台湾の大学・高校青少年交流団38名が本学を訪れました。これは、鳥取県内で開催されたイベントに参加した仏光大学、南華大学、普門高等学校の交流団が、交流事業の一環として本学を訪問したものです。

交流団一行は、学長を表敬訪問した後、本学学生の案内のもと学内



見学を行いました。その後、茶道体験で日本文化に親しんだり、各大学の学生それぞれがプレゼンテーションを行ったりして、お互いの理解を深めました。昼食を共にした後は、本学の学生と一緒にじゃんしゃん踊りを体験し、最後には輪になって踊り、笑顔のあふれるフィナーレとなりました。短い1日ではありましたが、様々な体験を通じて交流を深め、それぞれにとって有意義な時間となりました。